

奄美パークだより

◆奄美の郷企画事業

◆田中一村記念美術館企画事業

◆奄美パーク応援隊紹介

◆わきや島自慢

◆常設展示室

奄美の郷企画事業

フュウメコンサート

平成18年12月17日にアカペラグループ「我自由丸S」による息の合ったハーモニイや名瀬中学校吹奏楽部の見事な音色の吹奏楽演奏、ヤマハ音楽教室講師のピアノ・エレクトーン演奏、大道芸「ハードパンチャーしんのすけ」のパフォーマンスや19年前に復活した笠利町用安集落の「イソ踊り」などを披露しました。



初春 唄あしび

平成19年1月3日に坪山豊さん、皆吉佐代子さん、中ほず美さん、平早代美さん、潤さつきさん、山元俊治さんが素晴らしい島唄を披露し、島唄研究グループ10人による発表や、笠利町節田集落の皆さんによる伝統行事「節田マンカイ」を披露するなどバラエティーに富んだ演目構成で正月気分を盛り上げました。



奄美パーク春まつい

「島唄でなより」

平成19年2月18日に与論民謡保存会による島唄、沖永良部島の知名町正名集落の皆さんによるヤッコ踊りや島唄、山北紀彦さんと皆吉恵理子さんによる息の合ったアフリカンパーカッションと島唄のコラボレーション、ヒギヤ唄いのしし会の皆さんによる個性ある大変楽しい島唄、築地俊造さんの旧正月にちなんだトクをはさんだ島唄などを披露しました。



奄美パーク春まつい

「サンガツサンチ」

平成19年3月4日、桃の節句にちなみ、女性だけの出演者で構成しました。藤田晶さん、笠利ひさなさん、田原瑞希さん、田原珠里さんの子供島唄に始まり、一条流千扇会による日本舞踊や山元孝子琉舞道場による琉球舞踊を2部構成で、また、沖永良部島の前田綾子さん、前田博美さんの祖母と孫による「えらぶ島唄」の共演や大和村の「大和浜ナギナタ踊り」の伝統芸能を披露しました。



10月ライブステージ

平成18年10月22日に、多目的広場にて開催。沖永良部島から「上平川大蛇踊り保存会」をはじめ、喜界島の兄弟デュオ「Doki Doki」、地元から「佐仁八月踊り保存会」、「奄美ふぬゐる」、「前山真吾・山元俊治さん」が出演し、島唄・踊り・太鼓演奏などバラエティーに富んだ演目構成で迫力のあるステージで盛り上がりました。



11月ライブステージ

平成18年11月26日に笠龍地区民謡保存協会30組の唄者による島唄、宇宿小学校の児童35人による伝統芸能「稲すり踊り」など多彩な演目構成で開催しました。



3月ライブステージ

平成19年3月11日に牧岡奈美さん、永志保さん、山下聖子さん、前山真吾さん、山元俊治さん、松元良作さんの若手唄者6人による素晴らしい島唄に続き、奄美パーク応援隊しもうた倶楽部8人による三味線合奏の初参加がありました。最後は、中村瑞希さん、吉原まりかさんも飛び入りで参加し、客席とステージが一体となり、楽しく華やかな舞台となりました。また、若手唄者6人が自ら企画した楽しめる構成・演出はめりがあり、若手ならではのバラエティーに富んだ演目構成で観客も楽しんでいました。



田中一村記念美術館企画事業

重村三雄「奄美の風景展」

平成18年8月6日から27日まで沖縄・永良部島出身で現在埼玉県さいたま市在住である重村三雄氏の「奄美の風景展」を開催しました。重村氏は元々彫刻の分野において国内外で活躍されていますが、今回は重村氏が南から与論島・沖永良部島・徳之島・加計呂麻島・奄美本島・喜界島を10年あまりかけて旅して描かれた風景画50点を展示しました。

入館者は、遠くから見ると写真のように丁寧に描かれていて素晴らしい、今では見られない懐かしい昔の島の浜辺を思い出す等、重村氏の風景画を見て、より一層奄美の自然の美しさを堪能していました。

また、開催初日の6日にはレクチャールームで記念講演会も行われました。



第8回一村ジュニア展

平成18年11月26日から12月17日にかけて、一村会が主催する第8回一村会ジュニア絵画大賞展の巡回展を開催しました。

今回は、大賞に選ばれた奄美市立朝日小3年生の上野大地君の作品「牛」や田中一村記念美術館館長賞を受賞した朝日小6年生の坂本晃樹君の「やどかり」と朝日中1年生の越間太陽君の「パショウ」を含む計178点の作品を展示しました。多くの作品が、奄美の自然や伝統文化を描いており、一村を目的として来館された県外からの観覧者からも「子供達のすばらしい絵に感動した。この才能を伸ばして欲しいと思う。」等と多くの感想をいただきました。



福永代志時広告写真展

平成18年12月23日から翌年1月8日まで、「福永代志時広告写真展」を開催しました。昨年開催した写真展が好評であり、寄せられたご意見の中で「福永氏が関わったポスターを見たい。」という要望に応え開催しました。

企画展示室内の壁全てに隙間無く展示した今回のポスター230点の他、福永氏の手掛けた39点のテレビコマーシャルも放映し、実際に撮影に使用した8×10（ジナー製）のカメラも展示しました。室内の多くのポスターを見て、多くの方々がその迫力に驚いたり感動したりしており、また、展示してあるカメラにも興味を持って覗いていました。



河原多美子「クレイアート」展

平成19年1月14日から28日まで、河原多美子「クレイアート展」を奄美から初春の花だより」を開催しました。

河原氏は20年ほど前からクレイアートに取り組み、数多くの展覧会に出品され、数々の賞を受賞されており、2004年にはフランス・パリのルーブル美術館で行われた『美の解放展』で「プレミア賞」を受賞されました。

80種の花を利用した約60点の作品を展示しましたが、中でも今回、奄美で初めての個展ということで、田中一村の作品にちなんで「アダンの木とブーゲンビレア」を展示しました。

来館者の方々には樹脂粘土で作られたと言われるまでは本物と見間違えたよう、粘土で作られた事に驚いていました。21(日)には「クレイアート体験教室」が行われ、43名の方が集まり、自分で作ったミニチュアリップを喜んで持ち帰りました。



大島海峡写真展

「山久ひろお・清宮健二三人展」

平成19年2月4日から18日まで、山久ひろお・清宮健二「大島海峡写真展」を開催しました。山久氏は三年前にUターンしてから撮影した大島海峡を中心とした35点の写真を、清宮氏は1年4ヶ月前に埼玉からIターンで奄美に移住されて、その夏に撮影した37点の写真を展示しました。

中でも、清宮氏は980円で購入した組み立て式のピンホールカメラで撮影した15点の写真と、そのカメラも展示しました。観覧者はピンホールカメラを初めて見た方もおり、撮影した写真と見比べながら、味わいのある写真を興味深く観覧していました。



奄美・横浜交流「遊展」

平成19年3月4日から18日にかけて、「海の道・水の道交流展実行委員会」主催の遊展「奄美・横浜交流展」を開催しました。横浜から26点、奄美から31点の合計57点の作品を展示して企画展示室を色鮮やかに飾りました。

作品を観覧された方々は、横浜と奄美の絵を見比べて、それぞれの個性（感性）を感じ取り感動されていました。

浅野 石田 伊藤 大折 笠原 柏木 蟹川 黄瀬 酒井

野田 藤澤 大間 折原 木村 江川 藤井

康俊 秀冬 賢司 三子 雅志 幸子

則利 利子 三子 三子 三子 三子

美品 堂中 野白 藤原 三子 三子

塩崎 川村 白林 藤原 三子 三子

佐成 哲郎 千允 保美 厚信 俊樹 修

明修 哲郎 千允 保美 厚信 俊樹 修

'07



amami

展

江子 一子 子通 子巨 子馬 子高 子英 子代

和秀 康慶 京光 シン 卓眞 ス 逸 廣 英 和

川田 園山 科村 岬村 森吉 吉川 和田 賀代子

田瀬 寺泊 林藤 保前 岬村 森吉 吉川 和田 賀代子

寛子 子治 子彦 子乃 子乃 子乃 子乃 子乃 子乃

高樹 子治 子彦 子乃 子乃 子乃 子乃 子乃 子乃

塚田 泉上 野江 大要 久島 里田 木山 藤畑 河美 紀子

主催 海の道・水の道交流展実行委員会
共催 鹿児島県奄美パーク 田中一村記念美術館
後援 画廊「楽」 絵具屋三吉 (協)横浜プリント

3月4日(日) - 3月18日(日)
午前9:00 - 午後6:00 (最終日午後5:00まで)

鹿児島県奄美パーク 田中一村記念美術館

第5回記念奄美を描く美術展

今回から、主催を「奄美を描く美術展実行委員会」に移し、協賛を募り、上位4作品を買い上げ賞として賞金を出すこととし、全国から作品を募集しました。

県内をはじめ県外からも埼玉・千葉・東京・京都・大阪・兵庫・愛媛・福岡・熊本の9都府県から出品があり、前回を上回る出品者72名、応募総数125点の作品が集まりました。鹿児島中央高校教諭の西村康博氏、名瀬美術協会会長の久保井博彦氏、県立大島工業高校教頭の寺園康一氏の3名が作品の審査を行いました。

審査員からは、「全体の印象としてしっかりと描き込んだ作品が多く、具象的作品が圧倒的に多いが、そのまま描くということではなく、様々な角度で作者が何を描きたかったかという奄美への思いが込められた作品が多く、楽しめる展覧会となった。」という総評をいただきました。



芸術文化講演

平成18年11月3日に、「一村芸術の到達点」をテーマに、田中一村について様々な研究を行っている栃木県立美術館特別学芸員である山本和弘氏を講師に招き、レクチャールームにおいて芸術文化講演を開催しました。

山本氏は、学芸員の立場から見た一村の絵を分析し、パワーポイントを使って一村の絵の構図等を解説しました。また、一村芸術の到達点として「一村は写真という近代的視覚、すなわち今日の私たちの生活的視覚との融合のうえに、近代主義のモダンな絵画と拮抗する絵画を日本画という伝統技法で構築した。」とまとめました。



美術講演

平成19年2月4日に、「田中一村様式形成の萌芽」をテーマに、鹿児島市立美術館学芸係長である山西健夫氏を講師に招き、レクチャールームにおいて美術講演を開催しました。

山西氏は、一村の生涯を東京時代の前期、千葉時代の中期、奄美時代の後期と大きく3つに分け、一村の画風の変遷を紹介しました。

また、「中期の作品は画風にずれがあるが、一村独特のスタイルが奄美で形成された。奄美の自然を描きながら一村独自の絵画の世界を構築していった。」などとスライドを交えて説明されました。

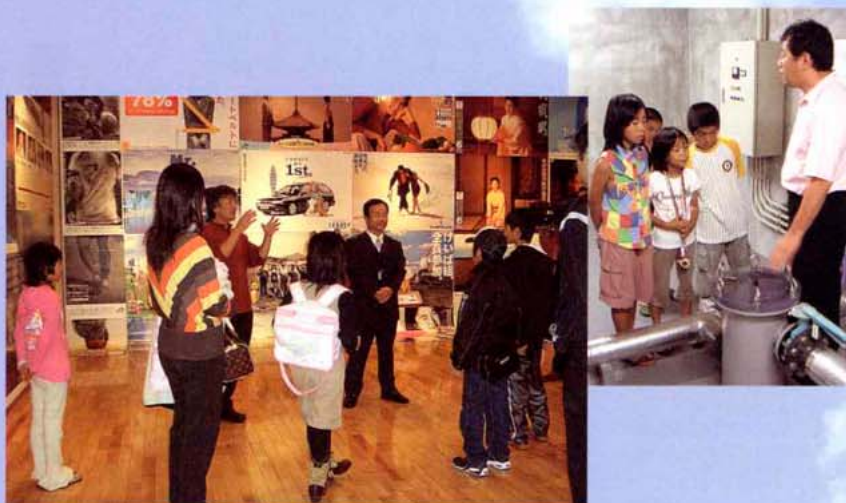
最後に、一村をじっくりと研究していく上で、作品目録を作り情報公開して研究しやすい環境をつくることとが今後の課題ではないかと提案して締めくくりました。



親子美術館探検

平成19年1月7日、田中一村作品鑑賞だけでなく、美術館施設の機能や美術館の果たす役割などを知ってもらうことにより、美術への理解や創作への関心を広げるために企画しました。

参加者は、美術館の裏側、機械室、電気室等を見て回り、美術館の維持について理解を深め、普段見慣れない機械等を見て興味を持つてくれました。また、最後に自分の想像する理想の美術館をスケッチして紹介してもらいました。



創作体験教室 人物画講座

平成19年2月24日と25日の2日間、県美展審査員・二科会会員である西健吉氏を講師に招き、人物画講座を開催しました。

まず、講師から人物の捉え方等の説明を受けた後、前半はクロッキーを、後半は油絵・水彩で制作しました。

参加者は西氏の指導のもと、真剣にキャンバスに向かい作品を仕上げ、各々の作品へのアドバイスをいただいていた。



多摩美術大学校友会 出前アート大学

平成19年3月10日と11日の2日間、多摩美術大学校友会が主催する出前アート大学が奄美パークで開催されました。小学校高学年を対象に募集を募り、各小学校から計18名の参加がありました。子供達は3人1グループに分かれ、多摩美術大学講師の野村辰寿氏やスタッフの教えのもと、自らキャラクターを作成し、物語を考え「クレイタウン」という動画作成ソフトを使ってクレイアニメーションを制作しました。

最後に、各グループが作成したアニメーションの上映会を行いました。2日間で作ったとは思えない程の出来映えで、上映会に参加した多くの人達を楽しませました。また、野村辰寿氏も奄美の子供達の感性の高さに感動し、参加した子供達に手作りの賞状と記念バッチを授与しました。





奄美パーク応援隊の紹介

奄美パーク応援隊は地域の方々による奄美パークのボランティアサポーターです。
4つの分科会に分かれ、それぞれ得意な分野で活動しています。

1 展示案内ガイド

奄美の郷及び田中一村記念美術館の展示の案内をします。

2 手熟ガイド

奄美の三味線、島唄、機織りなどを実際に行いながらガイドをします。

3 園芸サポーター

奄美パーク園地の植物を管理します。

4 一村サポーター

田中一村記念美術館の企画展示作業のサポートをします。

また、分科会以外の活動も行っており「しまうた倶楽部」では月に2回の練習に励んでいます。
応援隊員はネームプレートをしていますので、見かけましたらお気軽に声をかけてください。



奄美パーク応援隊の声

二人三脚

近藤廣一・美智子

二十数年ぶりに奄美に帰って来て、六年目になります。島出身でありながら、いろんな意味で奄美のことをあまり知らず、この機会に奄美パークのボランティアガイドをしながら、一緒に勉強していこうと思いい応援隊に登録しました。昨年仕事を辞めた主人も登録し、二人三脚で未だにひとり立ちできない状態です。

展示ガイド、園内の植栽ボランティアも欠席が多く不十分ですが、二人で協力しつつつけていこうと努力をしています。お陰で奄美パークの職員、応援隊仲間と沢山の友人に恵まれ幸せです。昨年のことです。ある少人数のご婦人の方のグループのガイドをした時のことです。関東方面の方々と、その中のおひとりが地元では有名な料理研究家とのことで、奄美の食材を使った料理とその食材の仕入れ先の市場のことを尋ねられました。でも、宿の場所と日程の関係上調達が難しく、翌日お帰りの際、私とその食材に私の作った島料理も添えて空港でお渡ししたところ、大変喜ばれ、後日お礼のお手紙と一緒に地元特産のお土産品や観光パンフレットを送って頂き、思わぬ友人ができました。世話好きおじさん、おばさんかも知れませんが、今後も気負わず、ガイドマニュアルに添わなくてもいいと勝手に決めつけて、マイペースで本来のガイド以外でも奄美観光のお役に立ちたいと思っています。それから、昨年末奄美パークの職員方の努力で「しまうた倶楽部」が発足し、現在講師の先生を含め八名の受講生、月三回楽しく練習に励んでいます。三月には初舞台？も立派に経験し、まだ二曲目ですが、島唄を三味線で弾いて、そして唄えるようになるなんて、本当に夢のようです。ボランティアガイドを通して、身の回りの世界が大きく大きく広がりました。少しでも多くガイド活動に参加できるよう努力して参ります。

「秋晴れ」寄託記念特別常設展

■展示期間：平成19年6月21日(木)～平成19年9月18日(火)

田中一村は50歳の時に奄美に移り住み、紬染色工として生計をたて、蓄えができたなら絵を描くという生活を繰り返し、名瀬市有屋の借家で、誰にも看取られず69歳の生涯を終えた。

前回の常設展で千葉時代、「青龍社展」に入選した「白い花」を展示したのに続き、翌年同展覧会に出品し、落選した「秋晴れ」を展示する。奄美では初公開となる。

常設展示室 1

幼年期～青年期・明治41年(1908)～昭和13年(1938)

◆幼い頃から南画において大人顔負けの天才的な画才を現していた。今回、13歳から22歳までの色紙を展示。

画題	種類	制作年代
凌波仙士	(色紙)	大正10年(1921年 13歳)
花菖蒲	(色紙)	大正14年(1925年 17歳)
桐陰図	(色紙)	昭和5年頃(1930年 22歳頃)
牡丹図	(色紙)	昭和2年(1927年 19歳)

◆23歳の時、「落の墓とメダカの図」を描き、南画との訣別を図ったが、賛同を得られなかった。これ以降、現実の世界を写生するようになった。

画題	種類	制作年代
秋色②	(額装)	昭和20年代(1945年 37歳頃)

◆「傲・」を基に仕上げた襖絵、四季を描いた中の夏。南画としての極みに達したともいえるほどの作品。

画題	種類	制作年代
千山争流図(夏)	(模写屏風仕立)	昭和20年代中期(40歳以降)：新寄託

◆米邨と名乗っていた頃の南画の作品。多くの作品が残っている。

画題	種類	制作年代
山水図	(軸装)	大正14年(1925年 17歳)
菊花図	(軸装)	昭和3年(1928年 20歳)：新寄託
富貴図	(軸装)	昭和4年(1929年 21歳)：新寄託

◆個人からの依頼で、約20点ほどの南画作品を描いている。作品には傲うという意味で「傲・」と入れてあるが、先達の作風に倣いながら独自の作品になっており、確かな技量を感じ取れる作品。

画題	種類	制作年代
傲蕪村②	(軸装)	昭和23/4年(1948/9年 40歳位)
傲鉄斎②	(軸装)	昭和23/4年(1948/9年 40歳位)

千葉寺時代の色紙・昭和13年(1938)～昭和33年(1958)

画題	種類	制作年代
夏富士	(色紙)	昭和18年頃(1943年 35歳頃)
麦播	(色紙)	昭和19年頃(1944年 36歳頃)
カワセミ	(色紙)	昭和20年頃(1945年 37歳頃)
千葉寺・秋	(色紙)	昭和23年頃(1948年 40歳頃)

常設展示室 2

千葉寺時代・昭和13年(1938)～昭和33年(1958)

◆30歳で千葉に移り住み、50歳で奄美に渡るまでの20年間、農業をしながら身近な風景や自然を描いた。

画題	種類	制作年代
秋日村路	(額装)	昭和10年代
八重ひまわり	(額装)	昭和10年代
ミヤマホオジロ	(額装)	昭和10年代
柿にカケス	(額装)	昭和20年代

奄美の一村・昭和33年(1958)～昭和52年(1977)

◆「奄美時代」の色紙。

画題	種類	制作年代
海辺への道	(色紙)	昭和30年代
奄美より喜界遠望	(色紙)	昭和30年代：新寄託
高倉風景	(色紙)	昭和35年頃(1960年 52歳頃)
カヤツリグサ	(色紙)	昭和30年代：新寄託
熱帯魚	(色紙)	昭和50年(1975年 67歳)

常設展示室 3

◆奄美の自然を描き、一村芸術が華開いた作品の数々。奄美の杜シリーズは11点、その他の大作を含めても16点しかない。

画題	種類	制作年代
海辺のアダン	(額装)	昭和35年頃(1960年 52歳頃)
ソテツ残照	(額装)	昭和40年代
奄美の杜⑤	(額装)	昭和40年代

◆「この絵だけは誰にも譲れない、閻魔大王へのお土産なのですから…」と一村が語った2点。「アダンの木」は個人が所有のため、複製を展示している。

画題	種類	制作年代
アダンの木	(額装)	昭和47・8年(64・5歳)：複製
奄美の杜⑥	(額装)	昭和47・8年(64・5歳)

九州・四国の旅・昭和30年(1955)

◆旅先を描いた作品は明るく躍動感にあふれ、奄美行ききっかけともなった。

画題	種類	制作年代
平和な朝	(色紙)	昭和30年(1955年 47歳)：新寄託
高千穂①	(色紙)	昭和30年(1955年 47歳)
足摺狂瀟	(色紙)	昭和30年(1955年 47歳)
鬼ヶ城黎明	(色紙)	昭和30年(1955年 47歳)

◆緻密な写生を繰り返した「素描」。

素描・魚②	素描・エビ④	素描・鳥①
素描・鳥③		

◆名瀬大熊付近を極めて緻密に写生し着色したもの。記録としても貴重な作品。

画題	種類	制作年代
大熊風景	(色紙)	昭和44年(1969年 61歳)

◆昭和22年、「白い花」が第19回青龍社展に入選したことを喜び、翌年同展覧会に、画号を「田中一村」に改めて出品。一村の思い入れとは逆に、参考として出品した「波」が入選したことで、主宰者である川端龍子と激しくぶつかり、入選を取り下げたと言われている。これ以降中央画壇での入選はなかった。併せて、寄託いただいた「菖蒲図」を展示している。

画題	種類	制作年代
秋晴れ	(屏風)	昭和23年(1948年 40歳)：新寄託
菖蒲図	(屏風)	昭和20年代中期：新寄託

◆「私も来年は七十歳古稀です。古稀記念として絵をお贈りして、ご高恩の万一に報いたいと考えて居ります。」との言葉が添えられた作品。

画題	種類	制作年代
エビと魚	(額装)	昭和51年頃(68歳頃)



～お知らせ～



鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館イベント案内 (平成19年7月～平成20年3月)

1 奄美の郷イベント広場

- 奄美パークサマーコンサート……………8月19日(日)
- 文化講演会……………9月23日(日)
- 奄美の郷ライブステージ……………10月21日(日)
- 奄美の郷ライブステージ……………11月25日(日)
- フユウメコンサート……………12月16日(日)
- 初春唄あしび……………1月3日(木)
- 奄美パーク春まつり
 - 島ジマだより……………2月17日(日)
 - サンガツサンチ……………3月2日(日)
- 奄美の郷ライブステージ……………3月16日(日)

2 田中一村記念美術館企画展示室

- 「アマミ 亜熱帯のいぶき」常田 守写真展……………7月22日(日)～8月12日(日)
- 没後30年記念「初公開：一村が描いた天井画の花々展」…8月17日(金)～9月17日(月)
- 一村シンポジウム……………9月16日(日)
- 「Color of AMAMI」別府亮写真展……………9月23日(日)～10月11日(木)
- 創作体験教室(風景画)……………10月7日(日)
- 第3回新緑～紅葉スケッチコンクール作品展……………10月21日(日)～11月24日(土)
- 第6回奄美を描く美術展……………11月3日(土)～11月24日(土)
- 第6回奄美を描く美術展表彰式……………11月3日(土)
- 芸術文化講演……………11月3日(土)
- 「TODAY'S ART TEXTILE」展……………12月1日(土)～12月15日(土)
- 屋嘉比寛作品展……………12月23日(日)～1月6日(日)
- 第9回一村ジュニア展……………1月13日(日)～1月27日(日)
- 美術講演……………2月3日(日)
- 「ぬさりと(豊穡)」鈴木るり子洋画展……………2月3日(日)～2月17日(日)
- 創作体験教室(人物画)……………2月23日(土)・24日(日)
- 海江田宏・吉村真也 洋画2人展……………3月2日(日)～3月16日(日)
- 大炊御門エデン「奄美 神々の大天底展」……………3月23日(日)～4月7日(日)

第3回新緑～紅葉スケッチコンクール 参加・応募期限…10月8日(月)

奄美パークだより

〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834

■奄美パークホームページ <http://www.amamipark.com/>

■奄美の郷/TEL.0997-55-2333 FAX.0997-55-2612

■田中一村記念美術館/TEL.0997-55-2635 FAX.0997-55-2613

■開園時間/9:00～18:00 (7・8月は9:00～19:00)

入園は、閉園時間の30分前までです。

■休園日/毎月第1及び第3の水曜日(祝日の場合は翌日)

〈4月29日～5月5日、7月21日～8月31日は開園〉

■施設観覧料/奄美の郷、田中一村記念美術館共通観覧料

大人…400円、高校・大学生…280円、

小・中学生…200円、幼児(小学生未満)…無料

奄美パーク周辺マップ

